放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和　　年　　月　　日　　事業所名　　SSTココペリの森

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		利用人数が多い日は、天候に問題が無ければ外で活動するようにしている。	利用人数が多く密な時がある。
	2	職員の配置数は適切である	○			人数は適切だが、各職員の事情等で安定した支援が提供出来ていないと感じる日はある。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		室内はフラットだが出入口が少し気になる。対象児童が居ないため現在の所は大丈夫である。必要な時は対処する。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		都度ミーティング等で共有している。	ミーティングに参加出来ない職員が居るため、連絡ノートや口頭にて必ず周知を行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			職員により把握している状況がまちまちなので、全員がきちんと把握出来るよう、アンケート結果をしっかりミーティング等で確認を行う。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			全職員に公表内容を見て、現状を把握してもらうよう周知を行う。保護者の方にも紙面にて配布やHPのお知らせを行う。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	ホームページにて評価・講評を実施している	評価・講評を実施している事を全職員で確認し、周知していく必要がある。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		オンラインの研修動画を担当を決め行っている。その他資格取得を促したりしている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		担当者会議の報告や、策定会議が適宜なされている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		管理者、児発管を中心に現場職員と確認し保護者の意向をくんだ計画書に基づきながら実施している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		事前ミーティングを行い役割担当を把握している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		モニタリングを定期的に実施し、評価のもとプログラム内容を改訂している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		行事や課題が重ならないように、話し合い支援内容を決定し支援を行っている。	平日の学校の終わりの時間が、バラバラなのと、年齢層を今一度見直し支援方法を再検討中。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別支援計画に基づき、状況に合った個別活動を行なっている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援内容を共有し、打ち合わせや役割分担の時間を確保している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		職員により就業時間も異なるため、その日出来なかった場合は、次の日必ず共有し、課題や対応等の洗い出しを行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎日の連絡帳を基に、支援後の振り返りを含め支援法の検討を行っている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		連携機関とのモニタリングと、職員間のモニタリングを摺り合せ、都度見直しをし計画に反映している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	○			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		管理者・児発管が日々の現場での様子や、事前の事業所内モニタリングを行い参画している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		可能な限り担当者会議に参加してもらうほか、都度送迎時に情報共有を図っている。	なかなか出来ていない学校もある。その場合必要に応じ相談支援専門員の方と連携を取り、話し合える場をしっかり設けてもらう。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		医療的ケア児が対象外である。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		児発や関係機関と適時行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		対象児が現在の所おらず、今回初めて対象児がいるので、現在進めている途中である。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	県の研修など研修動画を活用し行っている。	コロナ禍によりなかなか実施が無い。機会があれば随時参加していきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	交流としては無いが、地域の学校に在籍している利用者様も多いため学校で活動を共にしている。	
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○			コロナ禍によりなかなか実施が無い。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			出来ている場合とそうで無い場合があるため、職員が全員保護者様としっかり連携が取れる体制を整えて行く。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている		○		可能な限り、送迎時に保護者との関わりや情報共有に努める。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		会議の際に説明を行っている。	管理者、児発管だけでなく、現場職員が全員説明出来るように周知していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要に応じ、随時事業所内相談を受け付け、行っている。	いつでも気軽に相談を出来るように、保護者の方へ声かけを行って行く。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		コロナ禍によりなかなか実施が無い。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		ご意見が合った際は、全職員に周知し電話やLINEなど保護者様に合わせご連絡し対応させて頂いている。	ご意見があった時に、職員がその場でしっかり対応できるよう、ミーティングや研修等で学んでいく機会をつくる。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		お便りや、月間行事予定表を毎月発行している。	
	35	個人情報に十分注意している	○		鍵付きの書庫に入れ、事業所より持ち出しはしないよう管理している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		個々に合せた伝達法にて、連絡や伝達を行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		ココペリマルシェを定期的に開催している。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			マニュアルは策定しているが、保護者の方々への周知がまだ完全では無いため、書面等で周知していく事を検討
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		定期的に避難訓練を実施している	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		定期的に虐待防止の委員会を開催し、開催内容を事業所職員に周知している	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		身体拘束を行う該当児無し	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		該当児は保護者からの事前連絡等で、把握している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		委員会を通し、上がってきた事案を全事業所で共有を行っている。	